



明治大学 校友会

秋田県支部会報

第30号

R2. 8. 7

コロナで総会中止

正副支部長 鶴田支部長を再任

新型コロナウイルス感染症拡大により、既にご案内の通り、今年の支部総会・講演会は中止の決定をさせて頂きました。

秋田県支部としては、この異常な事態に対しZoomを利

用した正副支部長会議を開催し、この1年間の事業の評価、収支決算の確認と承認、今後1年間の事業計画・体制を決定しました。

特に昨年は、元全日本女子バレーボール代表、斎藤真由

美氏をお迎えしての講演会に、多くの校友の参加をみる事ができました。また、初めての試みとして「明大女性会議ラウンドテーブル」を発足させ、昨年9月と11月に開催いたしました。

『ツナガル』をテーマに

今年度は悉くイベントが中止となりますが、コロナ禍に見舞われた現役学生への就学支援を予算化しております。また、今年度は役員の改選期にあたり、支部長には引き続き鶴田有司氏を選任し、お願いすることとしました。これにより、新たに佐々木貴徳氏を副支部長に、真田恭子氏を副幹事長に加え、「ツナガル」体制の強化を図っております。

かつていろいろな取り組みを行っております。学部も多彩になってきており、特に文系学生が1、2年生時代に学んだ和泉校舎は「イキイキとした学習の場の創出へ」をテーマとした新教

はこの4月以降、新型コロナの影響でオンライン授業のみが行われているようです。それも7月からは緩和の方向と聞いており、早期の完全復活が望まれます。現役の学生さんも大変な時代を迎えており、自分を見失うことのないように願っております。

コロナに負けず邁進を

明治大学校友会 鶴田 有司
秋田県支部長

今年度は役員の改選期を迎えておりましたが、新型コロナウイルスの影響で総会を開催することができませんでした。そのため直接皆様方のご了解をいただくことはできませんでしたが、副支部長、幹事長のご推薦をいただき、秋田県支部長を引き続きお引き受けすることにいたしました。

さて、明治大学は2021年の創立140周年に向

おります。そんな中で秋田県支部は会員の皆様の抛りどころとなれるよう、皆様のご意見を伺いながら活動を進めて参りますので、どうぞ今後ともよろしくお願い致します。(昭和50年・経営卒)



育棟の建設が進められており、2022年3月の完成を目指して生まれ変わろうとしています。新しいコンセプトと斬新な発想のもとでの建設であり、注目的となりそうです。ただ残念なことに、大学

「ツナガル」ご提案には、期中であっても実施に向けた体制を取って参ります。こんな時こそ「ツナガッテル？」です。(秋田県支部幹事長・大坂良宏||昭和52年・経営卒)

わが青春の記



母校の象徴だった記念館（3代目）。左の写真は和泉校舎（いずれも昭和51年度卒業アルバムより）

懐かしい光景 いまも随所に

蓮沼千佳子(61) 秋田市



昨年、所用のついでに駿河台を歩いてみた。

お茶ノ水駅から大学に至る僅かな道のり。茗溪堂書店や名曲喫茶「丘」が消え、生協書籍部の建物もなくなり楽器店が隆盛を極めている。明大通り沿いの高層建築校舎には驚くばかりだった。

だが立派な新キャンパスの裏手に回ると、山の上ホテル本館と日大の校舎が記憶のままに存在し、その間の急坂が降りた突き当たり10号館が昔通りの姿で残っていた。師弟食堂はどうなっただろう。校舎に入って確かめる勇氣はなく、錦華坂を下り靖国通りに出た。学生の頃憧れていた洋食屋「ランチョン」で食事をとり、40年越しの夢を叶えた。レストランの窓から見た靖国通り南側の景色は記憶とあまり変わらず、書泉も古書店群も健在のようだった。（昭和57年・文卒）

雀荘と部活の 懐かしき日々

打川 敦(62) 横手市



何故か明大だけ学生運動がまだ盛んで、和泉校舎

の生協はヘルメット姿の学生が屯ろし、物騒で近寄れなかった。明大前から和泉校舎までの狭い通りには雀荘やビリヤード場が連なり、窓越しに先輩から声がかかるものだから無事に学校に着くためしがない。

秋田県支部役員（2020—2021年度）

相談役	加賀 勝己	(昭和40年・法卒)
支部長	鶴田 有司	(同50年・経営卒)
副支部長	乳井 宏資	(同37年・政経卒)
	木村 友勝	(同39年・農卒)
	大地 進	(同52年・政経卒)
	佐々木 章	(同55年・商卒)
	蓮沼千佳子	(同57年・文卒)
	伊藤 徹	(同60年・法卒)
	相場 修	(同60年・政経卒)
	新出 康史	(同60年・政経卒)
	齋藤 登則	(同61年・商卒)
	三浦 正博	(同62年・商卒)
	佐々木 貴徳	(平成10年・法卒)
監査委員	大淵 宏見	(昭和54年・商卒)
	大友 聡	(同57年・政経卒)
幹事長	大坂 良宏	(同52年・経営卒)
副幹事長	廣田 睦子	(平成16年・法卒)
	真田 恭子	(同22年・情報卒)
事務局次長	菅原 代嗣	(昭和58年・工卒)
事務局次長	加藤 千秋	(平成20年・文卒)
幹事	遠藤 欽一	(昭和35年・法卒)
	鶴田 悟一	(同37年・経営卒)
	三ッ倉 和雄	(同38年・商卒)
	打川 猛	(同39年・農卒)
	長門 靖彦	(同40年・経営卒)
	大津 勝彦	(同43年・法卒)
	澤田 祐治	(同43年・商卒)
	菅原 道雄	(同44年・経営卒)
	松江 正和	(同48年・経営卒)

記念館の地下には部室があり、ギターを抱えて軽音楽部にはよく通った。ジャズやロックなど多くのバンドがあったが、ブルーリッジ・マウンテン・ボーイズというバンドに所属していた。学生のブルーグラスが盛んで、青学や慶応、千葉大、成蹊大などと有楽町そごうの読売ホールで演奏会を毎年開催していた。

（昭和56年・商卒）

幹事	松尾由美子	(昭和49年・文卒)
	佐々木 満	(同52年・商卒)
	東海林 洋	(同53年・法卒)
	進藤 勝実	(同54年・商卒)
	小林 科樹	(同54年・商卒)
	小松 伸	(同54年・商卒)
	桜庭 誠	(同56年・工卒)
	山崎 義裕	(同56年・工卒)
	米屋美生夫	(同56年・商卒)
	打川 敦	(同56年・商卒)
	大高 浩和	(同59年・商卒)
	工藤 千里	(同61年・法卒)
	平川 利晴	(平成2年・工卒)
	遠田 博士	(同2年・経営卒)

幹事	川本 英樹	(平成2年・政経卒)
	稲葉 隆	(同3年・農卒)
	山本 茂毅	(同4年・法卒)
	白川 雅浩	(同4年・商卒)
	金子 敬司	(同4年・経営卒)
	杉山 竹晴	(同7年・法卒)
	赤川 早人	(同10年・法卒)
	佐々木 仁	(同10年・法卒)
	加藤 圭輔	(同14年・商卒)
	奈良田 鮎子	(同18年・政経卒)
	佐々木 貴寛	(同24年・経営卒)
	加藤 結	(同24年・文卒)
	金子 雄太	(同26年・法卒)
	佐藤 康大	(同29年・政経卒)

胸に刻み込む



仲間と出会い 視野を広げる

相場 修(57) 秋田市



今、新型コロナウイルスの感染が広がる状況を見ると、世界は狭いと感じる。ところが学生時代は、とにかく日本は広いと感じたものだ。ゼミ、バイト、バスケのサークル、雀荘通い。今思うと軸のない平凡な学生生活だったが、全国から集まった明治の仲間との出会いはとて

バイトで稼ぎ よく飲み歩く

米屋美生夫(63) 大館市



昔は東京六大学に入るのに1浪、2浪なんて珍しくもなく、かく言う私もその一人でした。なんとか明治に入ることが

も新鮮だった。

当時そこには「秘密のケンミンSHOW」が存在した。語り合うだけで、その土地に行ってみたい、見てみたいとの好奇心が湧いた。自分の視野を広げてくれた原点だ。

その後、仕事やプライベートで各地に行く機会に恵まれ

できました。もちろん自分の頑張りもありましたが、浪人生活を支えてくれた両親には感謝しています。

ただ、その感謝とは程遠い大学生活だったような気がします。

授業中はノートを取らず、真面目な人のノートをコピーしたり、クラスに運動部員がいたので、よく代返もしました。私の記憶だと、3人の代返までが限界だったかな。

授業に出ないでアルバイトに励み、そのお金で下北沢、新宿、高円寺、御茶ノ水付近で、よく飲みましたね。どこで誰と飲んでも、「秋田の人は酒が強く、楽しい場になるね」と言われたものです。

いま思えば、楽しい大学生生活でしたが、「当時は本当に親に感謝していたのかな」と、親になって初めて考えさせられます。(昭和56年・商卒)

た。浅く広くではあるが、当時の思いを少しずつ形にしているのは楽しい。全国47都道府県、残すは九州や四国の数県。

グローバルな世の中にあつて、まだまだ広い日本を巡る密やかな楽しみは続いている。(昭和60年・政経卒)

収支計算書(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日) (単位:円)

収入の部	予算額	決算額	差額
I 本部より助成金収入			
1 支部総会開催通知費	177,000	194,288	-17,288
2 支部総会会場費	200,000	200,000	0
3 支部運営助成金	218,000	218,000	0
4 支部公開講演会会場費	0	0	0
5 講演会チラシ等作成費	0	0	0
II 支部会費収入	510,000	656,000	-146,000
III 総会費収入	300,000	215,000	85,000
IV 事業収入	0	0	0
V 寄付金収入	0	0	0
VI 特別寄付金収入	0	0	0
VII 果実収入	1,000	517	483
VIII 広報費	0	0	0
IX 雑収入	70,000	80,000	-10,000
X 基金取崩収入	0	0	0
収入合計	1,476,000	1,563,805	-87,805
前年度繰越収支差額	2,423,108	2,423,108	0
合計	3,899,108	3,986,913	-87,805
支出の部	予算額	決算額	差額
I 事業費			
1 学生表彰費	0	0	0
2 学生団体助成金	30,000	0	30,000
3 地域支部交流費	200,000	78,080	121,920
4 支部公開講演会費	80,000	82,780	-2,780
5 義援金(災害学生支援)	0	200,000	-200,000
6 その他事業費	260,000	256,384	3,616
II 広報費			
1 支部会報発行費	300,000	332,536	-32,536
2 広報関係費	10,000	1,901	8,099
III 組織費			
1 地域支部助成金	0	0	0
IV 運営費			
1 会議費			
(1) 支部総会費	800,000	814,007	-14,007
(2) 役員会費	100,000	125,876	-25,876
(3) 監査委員会費	10,000	0	10,000
(4) 委員会費	10,000	0	10,000
(5) 業務費	40,000	68,444	-28,444
(6) 事務費	50,000	70,316	-20,316
2 慶弔費	50,000	30,000	20,000
V 積立金	0	510	-510
VI 予備費	0	0	0
支出合計	1,940,000	2,060,834	-120,834
当年度収支差額	-464,000	-497,029	33,029
次年度繰越額	1,959,108	1,926,079	33,029
合計	3,899,108	3,986,913	-87,805

収支予算書(自 2020年4月1日 至 2021年3月31日) (単位:円)

収入の部	予算額	支出の部	予算額
I 本部より助成金収入		I 事業費	
1 支部総会通知助成	170,000	1 学生表彰費	0
2 支部総会会場費	0	2 学生団体助成金	30,000
3 支部運営助成金	200,000	3 地域支部交流費	200,000
4 支部公開講演会会場費	0	4 支部公開講演会費	0
5 講演会チラシ等作成費	0	5 学生教育支援奨学金	200,000
II 支部会費収入	540,000	6 その他事業費	120,000
III 総会費収入	0	II 広報費	
IV 事業収入	0	1 支部会報発行費	360,000
V 寄付金収入	0	2 広報関係費	20,000
VI 果実収入	1,000	III 組織費	
VII 雑収入	10,000	1 地域支部助成金	0
		IV 運営費	
		1 会議費	
		(1) 支部総会通知費	170,000
		(2) 役員会費	100,000
		(3) 監査委員会費	10,000
		(4) 委員会費	10,000
		(5) 業務費	70,000
		2 事務費	70,000
		3 慶弔費	30,000
		V 積立金	0
		VI 予備費	0
収入合計	921,000	支出合計	1,390,000
前年度繰越収支差額	1,926,079	当年度収支差額	-469,000
合計	2,847,079	次年度繰越額	1,457,079
		合計	2,847,079



(明治大学HPより)

◆新型コロナウイルスの影響を受けた学生への緊急支援資金
金
◆新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴い、家計支持者の失業や収入減、学生自身のアルバイトの機会の喪失など、学生の修学継続に暗い影を落としています。こうした状況を受け、本学では中長

寄稿・投稿

世界的に蔓延している新型コロナウイルスにより、私たちの生活は大きな影響を受けています。私は体育会弓道部に所属していますが、3月後半に出された緊急事態宣言のため、部としての活動ができなくなりまし

た。練習試合は当然のこと、間近に迫っていた関東大会や夏のインカレなどは、冬への延期が決まり、練習は自宅での筋力トレーニングに限られました。現在は、個人が道場で自主練習を行っています。この会報が発行される

期的な視点で学生の学びを支えていくために「明治大学学生・教育活動緊急支援資金」を設定し、ご協力をお願いしております。ひとりでも多くの皆様のご賛同をいただき、この資金を通じて本学学生へ力強いご支援を賜りますようお願い、心からお願ひ申し上げます。募集金額は1口1万円(詳しくは明治大学HPを参照)。

頃には本格的な練習が開始できそうです。しかし全員が集まっておらず、依然として厳しい状況です。

また、授業はオンラインになり、教授も学生も慣れない環境で講義を進めることとなりました。授業を受けるにあ



コロナ禍で生活が一変

太田 弘人

たり、パソコンやWi-Fiなどの通信環境を整える必要が生じ、急遽用意した学生も少ないようです。

一方で、大学へ向かわなくてもよくなり、時間的余裕が生まれました。オンデマンド式の授業も多く、課題の提出

◆明治大学への寄付について「同心協力」と「明治はひとつ」の精神で学生を支援
さる5月26日、柳谷孝理理事長、大六野耕作学長、大原幸男経営企画担当理事の出席のもと、北野大校友会会長から、「明治大学学生・教育活動緊急支援資金」へ2億円の寄付がなされた。この寄付金は、校友会が毎年積み立てている「校友会基金」のうちから拠

期間の許す範囲であれば、自分のタイミングで授業を受けることができると、学生にとって大きな利点となりました。

文系の学生の中には駿河台キャンパスに憧れて入学した人もいると思います。現3、4年生にとって、憧れのキャ

ンパスライフが1年間減ってしまったのは残念なことだと思ひます。

話は戻りますが、体育会に所属する私たちはスポーツを通して明治大学に貢献することが大きな役割と考えております。今後の状況次第では大

出されたもので、北野会長は「この基金は歴代の校友の方が積み立ててきたものであり、このような状況の下で困窮している本学学生のために使って頂きたい」と述べた。

会報へのご意見、ご感想は、秋田県支部ホームページ「会員コーナー」からお寄せください。

会の開催自体が危ぶまれます。特に4年生にとっては最後の大会で、その活躍の場が失われるのは大変嘆かわしいことだと思ひますし、活動期間が1年減ってしまうことは、私たちに与える影響も非常に大きいです。

大会がなくならないように祈ることしかできない現状が、悔しくて仕方ありません。新型コロナウイルスに感染しないことが最優先ではあります。大会が開催された際には、自分の納得できる結果を残せるよう、この悔しさをバネに精進していきたいと思ひます。(政治経済部3年・体育会弓道部)

明けても暮れてもコロナ、コロナ。新聞もテレビも人々の話題も、新型コロナウイルスの感染で持ち切りだ。無理もない。目に見えぬ人類の敵であり、世界中がまさに戦争状態にあると言つていい▼今号の支部会報もコロナ絡みの話題満載となった。でも、そればかりでは面白くない。第一、紙面全体が暗くなる。「せめて」との思いから企画したのが、2-3面で展開した「わが青春の記」である▼4人に執筆をお願いしたところ、二つ返事で快諾。い

ずれも明大生の頃の思い出が目に見えるような文章ばかりだ。校友の心の古里をあらためて垣間見た思いがする▼ところでコロナ禍で引き合いに出されるのが、約100年前の「スペイン風邪」である。日本でも猛威を振るっていた大正9年、実は「白雲なびく」の母校の校歌が世に出たのだ。数々の歴史に接してきたわが校歌。きつと、コロナの終焉も見届けるに違いない。

(編集担当・大地進)

編集後記